

## 第2章

---

---

### 富士見市の現状と課題

## 第2章 富士見市の現状と課題

### 第1節 統計データ等からみる現状

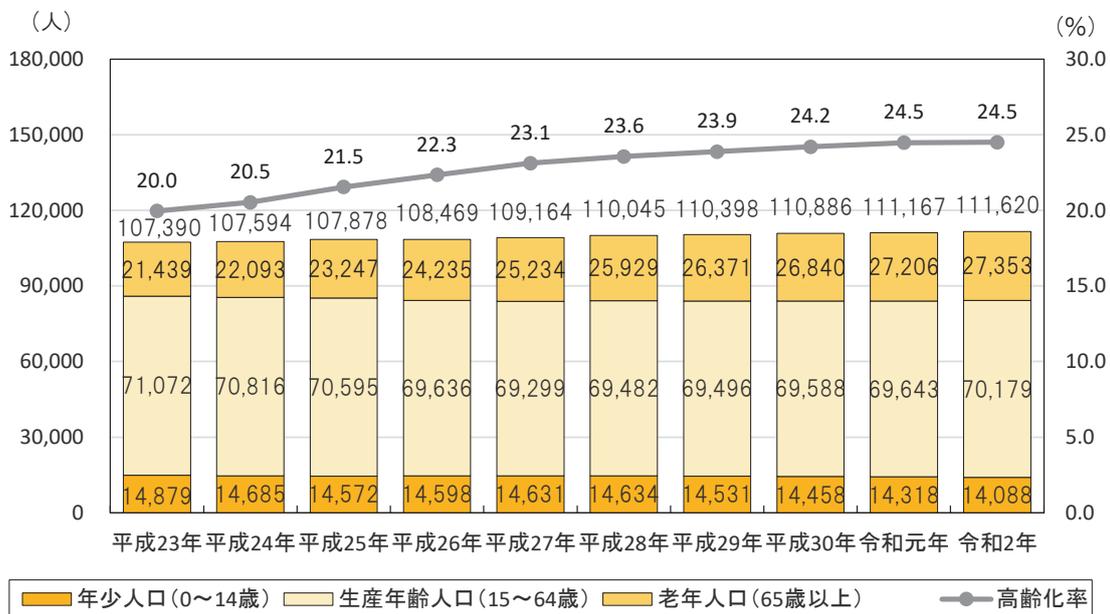
#### 1. 人口の状況

本市の総人口は令和2年1月1日現在111,620人です。年少人口（0～14歳）は平成29年以降減少がみられるものの、総人口としては緩やかな増加傾向となっています。高齢化率は令和2年1月1日現在で24.5%です。

年齢3区分別人口の推移及び将来推計をみると、総人口は、令和7年頃をピークに、以降は人口減少段階に入るものと見込まれます。年少人口は令和2年をピークに減少し、生産年齢人口は令和7年にいったん増加するものの、おおむね減少傾向にあります。老年人口は令和7年以降増加し続け、団塊ジュニア世代（昭和46年～49年生まれ）が65歳以上に到達する令和22年には3万人を超えると見込まれます。

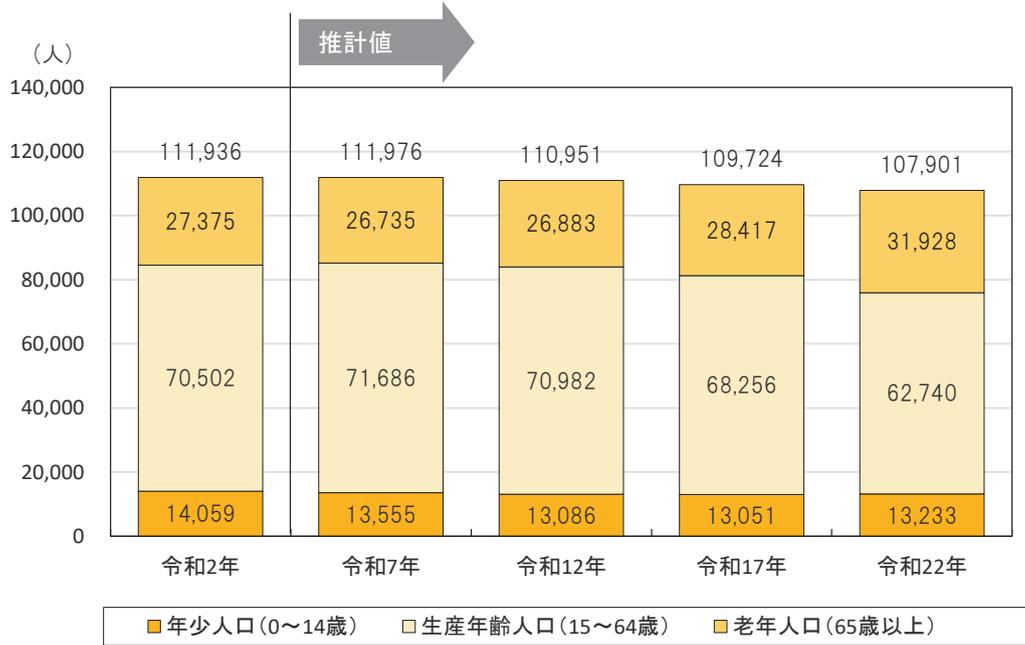
人口ピラミッドは、45～49歳を第一頂点とし、団塊の世代（昭和22年～24年生まれ）を含む70～74歳を第二頂点としたひょうたん型となっており、おおむね国の人口ピラミッド傾向と似ています。

総人口と年齢3区分別人口の推移



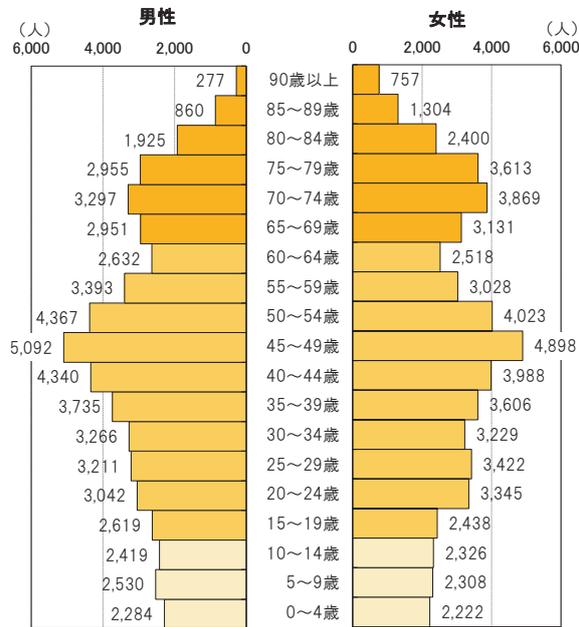
出典：埼玉県町(丁)字別人口調査（各年1月1日）

総人口と年齢3区分別人口の将来推計



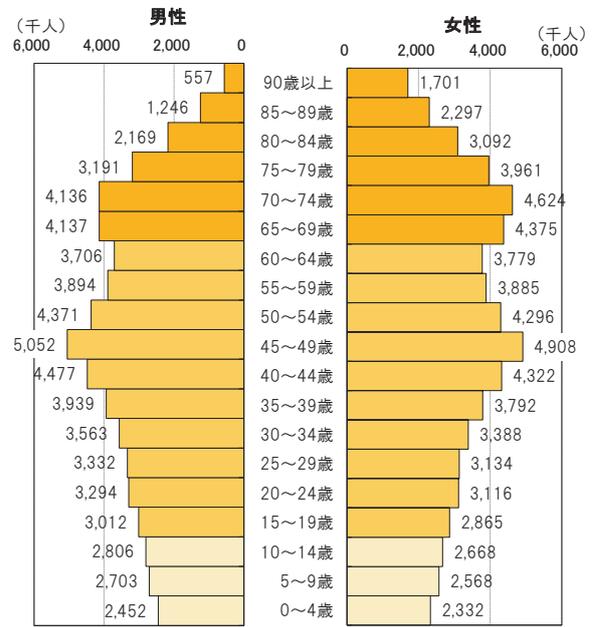
出典：富士見市人口ビジョン（令和2年5月公表。各年3月末日現在）

年齢別男女別の人口ピラミッド（富士見市）



出典：住民基本台帳（令和元年12月31日現在）

年齢別男女別の人口ピラミッド（国）

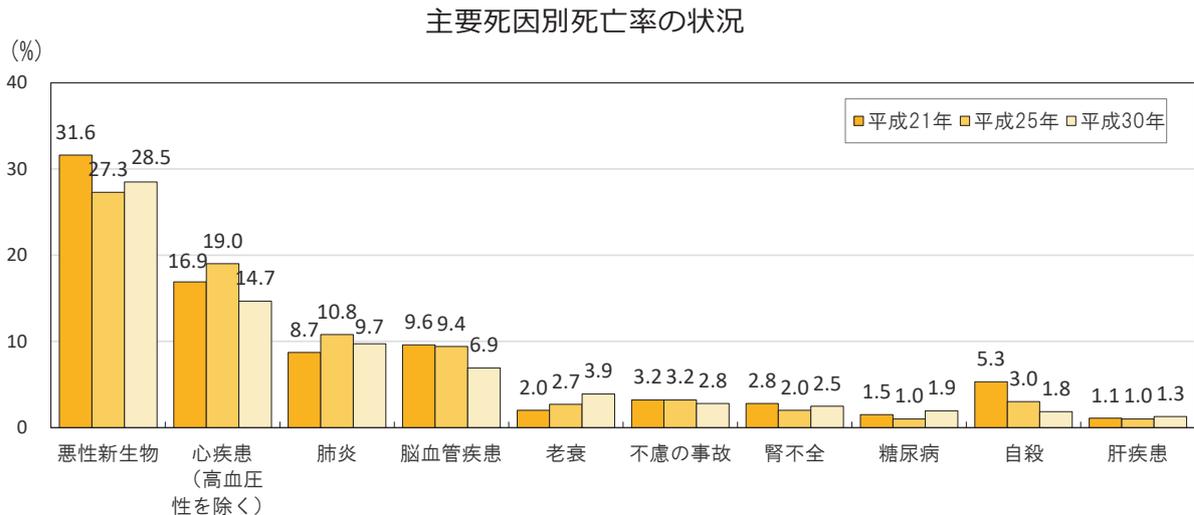


出典：総務省住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（令和2年1月1日現在）

## 2. 主要死因の状況

本市の主要死因別死亡率の状況を見ると、悪性新生物（がん）が突出して高くなっており、この傾向はおよそ10年前から変化していません。また、平成25年から平成30年にかけて心疾患、肺炎、脳血管疾患の割合は減少しました。

保健所年報による平成30年の死因順位別死亡率を見ると、本市と埼玉県は、1位から5位まで同じ順位となっています。



出典：埼玉県保健統計年報より作成（平成30年）

死因順位別死亡率<sup>1)</sup>（死因順位）（人口10万対（人））

死因	富士見市		埼玉県		全国	
	平成25年	平成30年	平成25年	平成30年	平成25年	平成30年
悪性新生物	218.8(1)	241.5(1)	253.7(1)	271.4(1)	290.3(1)	300.7(1)
心疾患 <sup>2)</sup>	152.1(2)	124.4(2)	142.8(2)	150.6(2)	156.5(2)	167.6(2)
肺炎	86.2(3)	82.3(3)	88.4(3)	76.4(3)	97.8(3)	88.2(5)
脳血管疾患	75.1(4)	58.5(4)	76.7(4)	68.4(4)	94.1(4)	87.1(4)
老衰	—	32.9(5)	35.7(5)	60.2(5)	55.5(5)	76.2(3)
不慮の事故 <sup>3)</sup>	26.0(5)	—	—	—	—	—

1) 死因別死亡率 = ある死因の死亡数 / 人口 × 100,000

2) 高血圧による心不全のような高血圧性心疾患は除く

3) 窒息、転倒・転落、溺死及び溺水、交通事故等

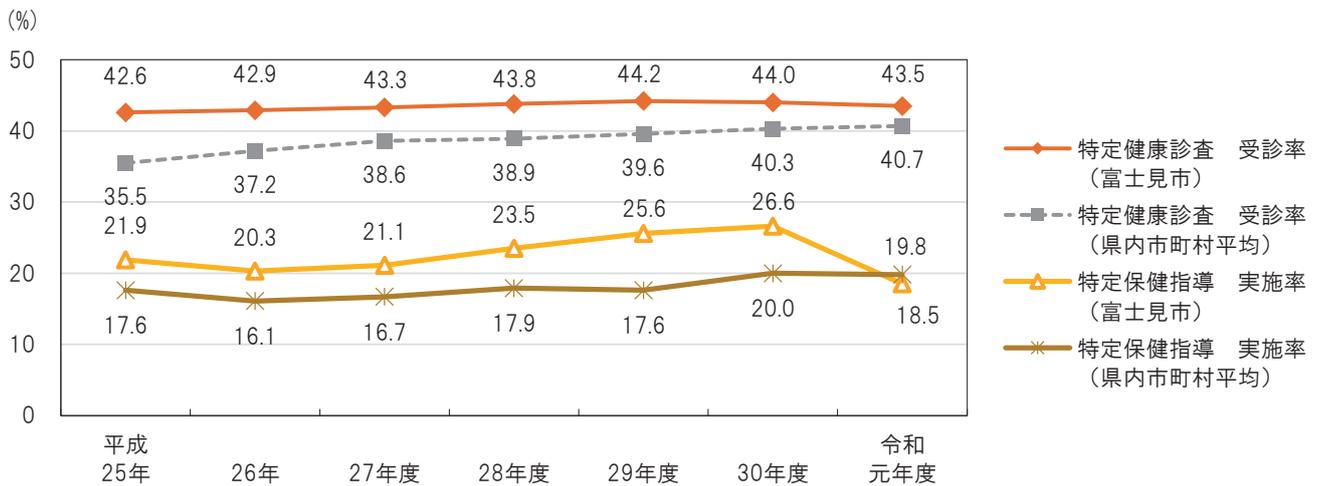
※上位5位のみ記載しています。

出典：保健所年報

### 3. 国民健康保健加入者の特定健康診査（特定健診）・特定保健指導<sup>18</sup>の状況

本市の特定健診受診率は43～44%、特定保健指導は約20%で推移しています。令和元年度の特定保健指導実施率以外は、県内市町村平均を上回っていますが、目標受診率に近づけていくことが課題となっています。

特定健康診査受診率・特定保健指導実施率の推移



出典：特定健康診査等の実施状況に関する結果報告（法定報告）

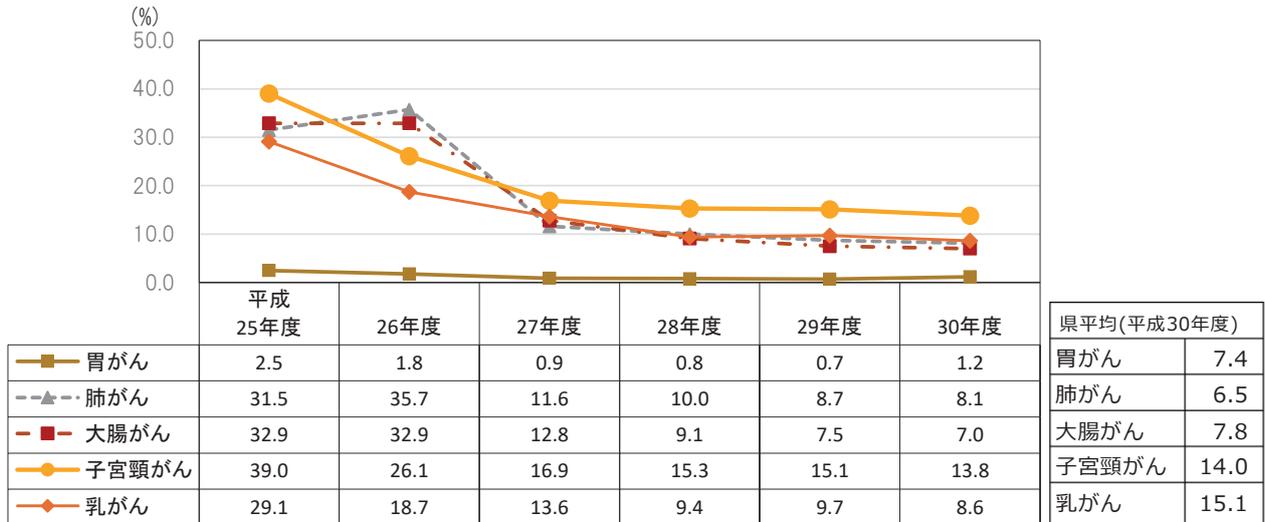
### 4. がん検診の状況

本市のがん検診受診率は、平成27年度から「がん検診受診率等に関するワーキンググループ」で提案された受診率で算出しており、平成27年度以降、受診率はほぼ横ばいで、県平均の受診率にも到達していません。

<sup>18</sup> 特定健康診査（特定健診）の結果から、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が期待できる方に対して、生活習慣を見直す保健指導を行うこと。

## 第2章 富士見市の現状と課題

### がん検診受診率



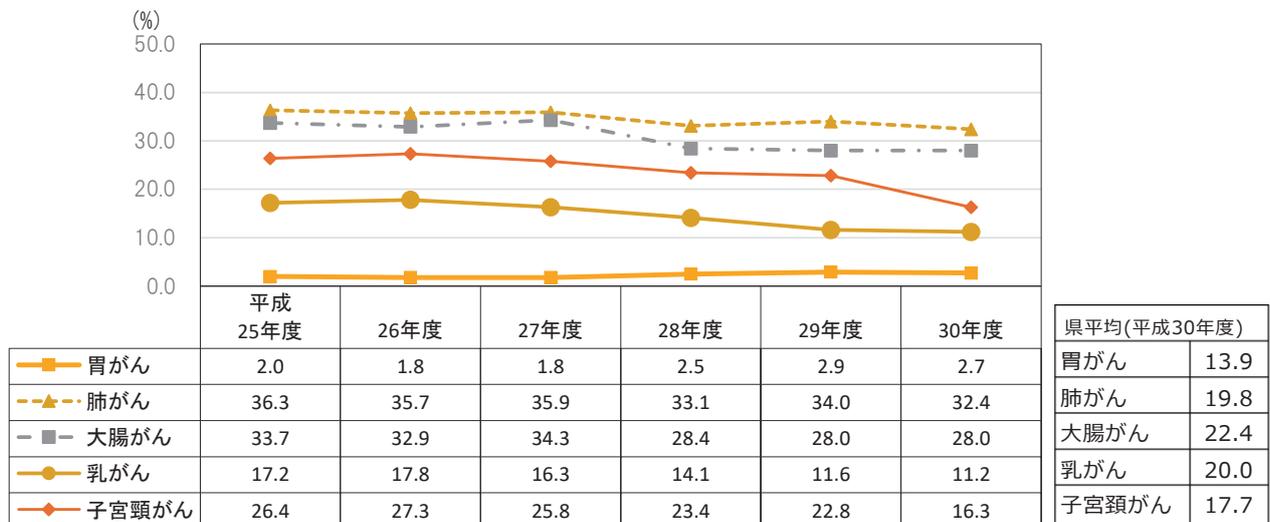
出典：地域保健・健康増進事業報告

\*「がん対策推進基本計画」（平成 24 年 6 月 8 日閣議決定）及び「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（平成 20 年 3 月 31 日健康局長通知別添）に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を胃がんは 50 歳から 69 歳まで、肺がん、大腸がん、乳がんは 40 歳から 69 歳まで、子宮頸がんは 20 歳から 69 歳までとしています。

\*平成 25、26 年度の対象者は、「人口から就労者人口を引いて農林漁業従事者を足したもの（厚生労働省報告書「我が国におけるがん検診事業評価の在り方について」（平成 20 年 3 月）で提案された方法により算出）」、受診者は、「市で行った各々のがん検診受診者で、人間ドックや企業の健診受診者は含んでいない」、受診率は、「受診者数／対象者数×100」で算出しています。平成 27 年度の対象者からの対象者は市民全体で、受診率を算出しています。

前期計画では、がん検診受診率の目標値は「地域保健・健康増進事業報告」を参考にしていました。しかし、後期計画より、がん検診受診率の目標値は埼玉県の「がん検診結果統一集計結果報告書」を参考にしており、「胃がん」、「肺がん」については、ほぼ横ばいで、「大腸がん」、「乳がん」、「子宮頸がん」については減少しています。

### がん検診受診率



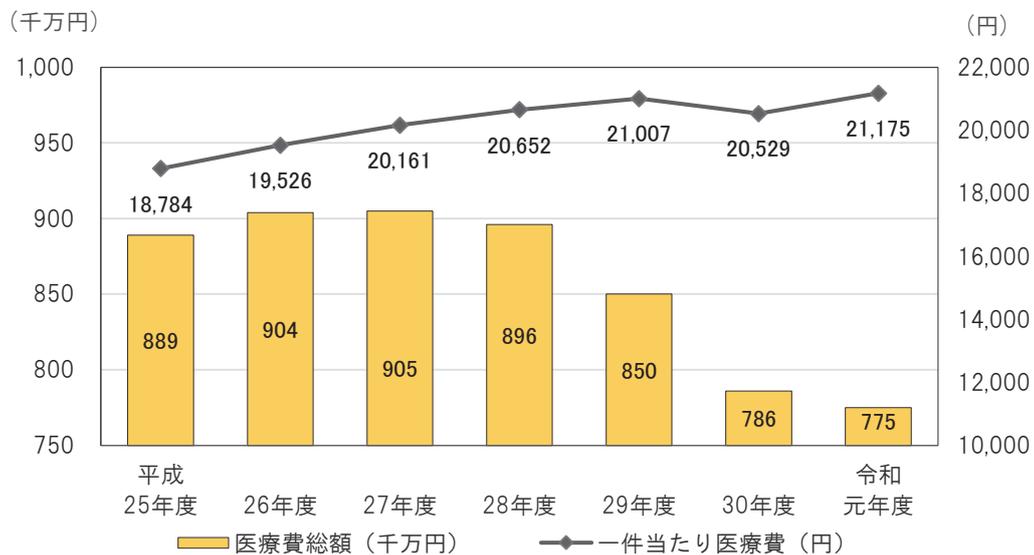
出典：がん検診結果統一集計結果報告書

## 5. 富士見市国民健康保険医療費の状況

富士見市国民健康保険医療費の状況です。令和元年度の医療費総額は約77億5千万円です。被保険者数は微減で推移しており、受診件数も年々減少しているため、医療費総額についても年々減少しています。また、一件当たりの医療費については平成25年度より増加傾向にて推移しています。

国民健康保険医療費の年次推移

年度	被保険者数 (年間平均)	件数	医療費総額 (円)	※1 一件当たり医療費 (円)
平成25年度	30,833	473,113	8,886,900,651	18,784
平成26年度	30,091	462,909	9,038,730,916	19,526
平成27年度	28,852	448,984	9,052,023,383	20,161
平成28年度	27,452	434,043	8,963,869,425	20,652
平成29年度	25,611	404,826	8,504,178,046	21,007
平成30年度	24,315	383,010	7,862,825,885	20,529
令和元年度	23,146	366,227	7,754,677,913	21,175



出典：令和2年度 富士見の国保

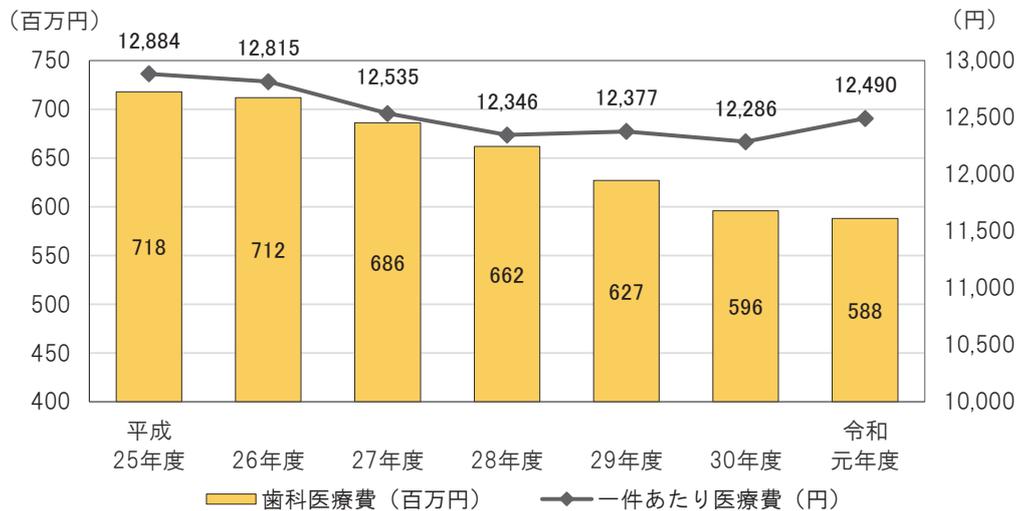
※1 1件当たり医療費 = 医療費総額 (または歯科医療費) ÷ (受診) 件数

## 6. 富士見市国民健康保険歯科医療費の状況

富士見市国民健康保険歯科医療費の状況です。令和元年度の歯科医療費は約5億9千万円です。受診件数が年々減少しているため、歯科医療費についても減少していますが、一件当たりの医療費はほぼ横ばいに推移しています。

国民健康保険歯科医療費の年次推移

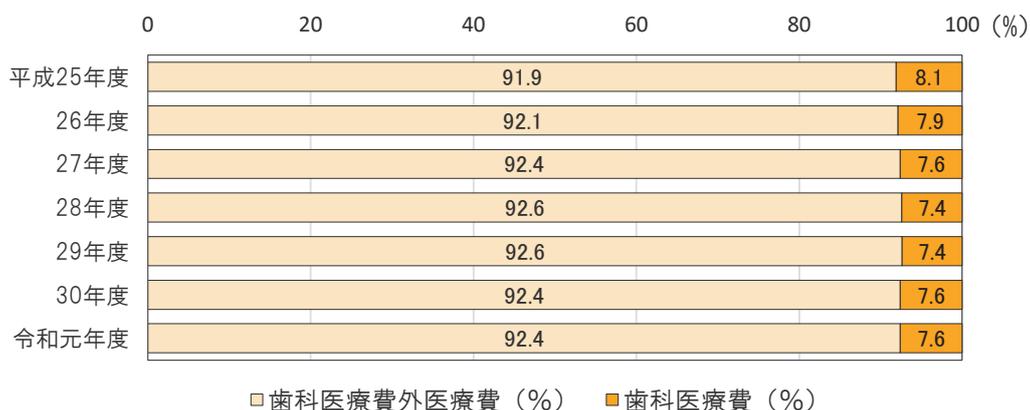
年度	被保険者数 (年間平均)	件数	歯科医療費 (円)	一件当たり医療費 (円)
平成25年度	30,833	55,754	718,312,906	12,884
平成26年度	30,091	55,570	712,124,720	12,815
平成27年度	28,852	54,717	685,859,486	12,535
平成28年度	27,452	53,628	662,073,225	12,346
平成29年度	25,611	50,665	627,077,435	12,377
平成30年度	24,315	48,478	595,612,185	12,286
令和元年度	23,146	47,060	587,800,941	12,490



出典：令和2年度 富士見の国保

富士見市国民健康保険医療費に占める歯科医療費の割合の推移です。令和元年度では、医療費総額に占める歯科医療費の割合は約8%となっており、平成25年度からほぼ横ばいに推移しています。

国民健康保険医療費に占める歯科医療費の割合の年次推移



出典：令和2年度 富士見の国保

## 第2節 アンケート調査結果の概要

### 【調査の概要】

「富士見市健康増進計画・食育推進計画」及び「富士見市歯科口腔保健推進計画」の中間見直しの基礎資料とすることを目的とし、以下のような方法で実施しました。

- ・調査名称：「富士見市健康に関するアンケート調査」（以下、「健康に関するアンケート調査」という。）
- ・調査対象：①「成人調査」 …市内在住の18歳以上の人  
           ②「中学生調査」 …市立中学校2年生の生徒  
           ③「小学生調査」 …市立小学校5年生の児童  
           ④「幼児保護者調査」 …市内在住の5歳児（年長児）の保護者
- ・実施方法：「成人調査」・「幼児保護者調査」…郵送配布－郵送回収法  
           「中学生調査」・「小学生調査」…市立各小中学校（担任教諭）を通じて配布・回収
- ・実施時期：「成人調査」・「幼児保護者調査」…令和2年4月23日～5月15日  
           「中学生調査」・「小学生調査」…令和2年5月1日～6月26日

### 【回収結果】

	対象者数	回収数	有効回収数	有効回収率
①成人調査	1,600	887	886	55.4%
②中学生調査	203	194	194	95.6%
③小学生調査	339	306	306	90.3%
④幼児保護者調査	400	295	295	73.8%

#### 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言時の調査について

本調査は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が行われている時期に実施したものです（「中学生調査」・「小学生調査」の対象校の一部は緊急事態宣言解除後も実施）。生活の維持に必要な場合を除いて外出の自粛などが要請されており、在宅時の生活実態、戸外での集まりや運動の実態等については、平常時とは異なる傾向が出ている可能性のあることに留意する必要があります。

### 【調査結果をみるにあたっての留意点】

- ① 集計は、小数点以下第2位を四捨五入しています。従って、数値の合計が100%ちょうどにならない場合があります。
- ② 基数となるべき実数は、（n：number of casesの略）として表示しています。
- ③ 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出しています。従って、複数回答の設問は全ての比率を合計すると100%を超えることがあります。
- ④ 本文や図表中の選択肢表記は、場合によって語句を短縮・簡略化している場合があります。
- ⑤ 図表中では、“-”を用いていることがあります。それは回答者がいないことや比較時に一方のデータがないことなどを表しています。

【調査の主な結果】

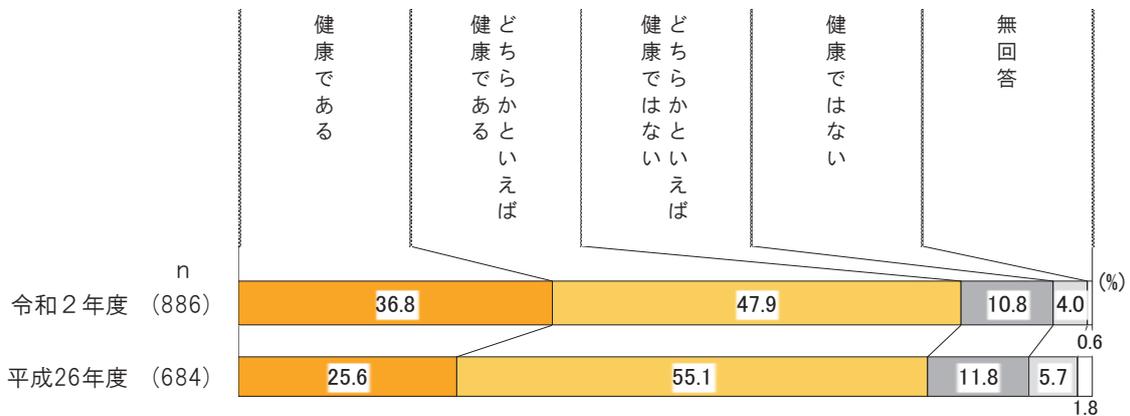
1. 健康全般

(1) 普段の健康状態

普段の健康状態では、「どちらかといえば健康である」が47.9%と最も高く、「健康である」(36.8%)と合わせた《健康である》は84.7%となっています。

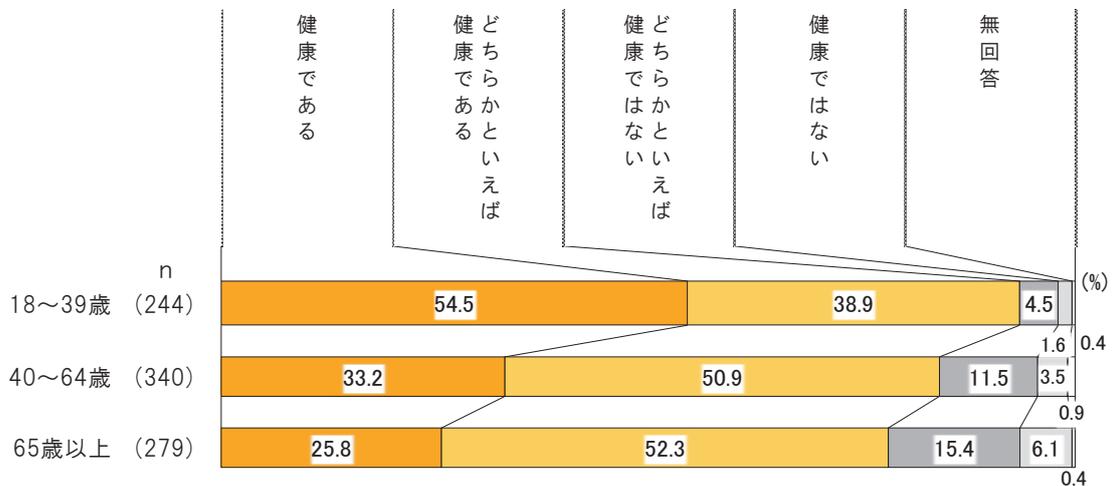
前回調査と比較すると、「健康である」は11.2ポイント増加しており、「どちらかといえば健康である」と合わせた《健康である》でも、4.0ポイント増加しています。(成人調査)

普段の健康状態（単数回答）



年齢別にみると、《健康である》は「18～39歳」で93.4%と最も高く、年齢が上がるほど低くなり、「65歳以上」で78.1%となっています。

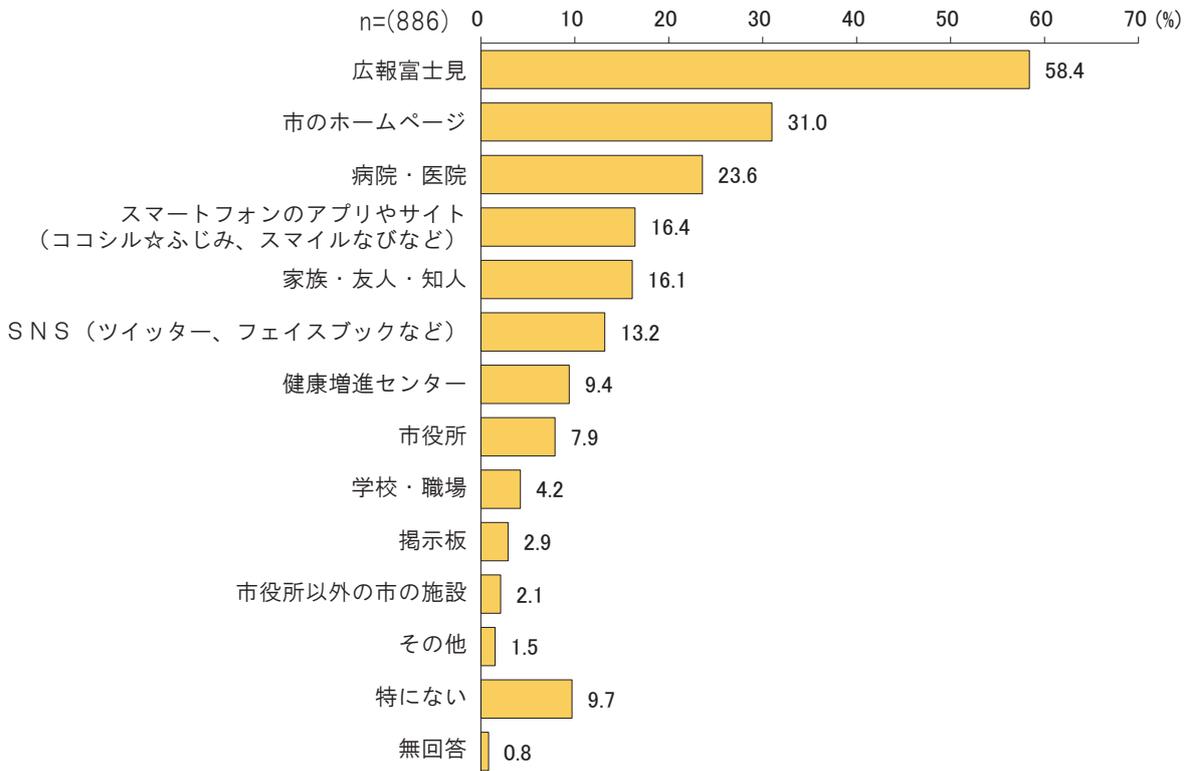
普段の健康状態（単数回答）



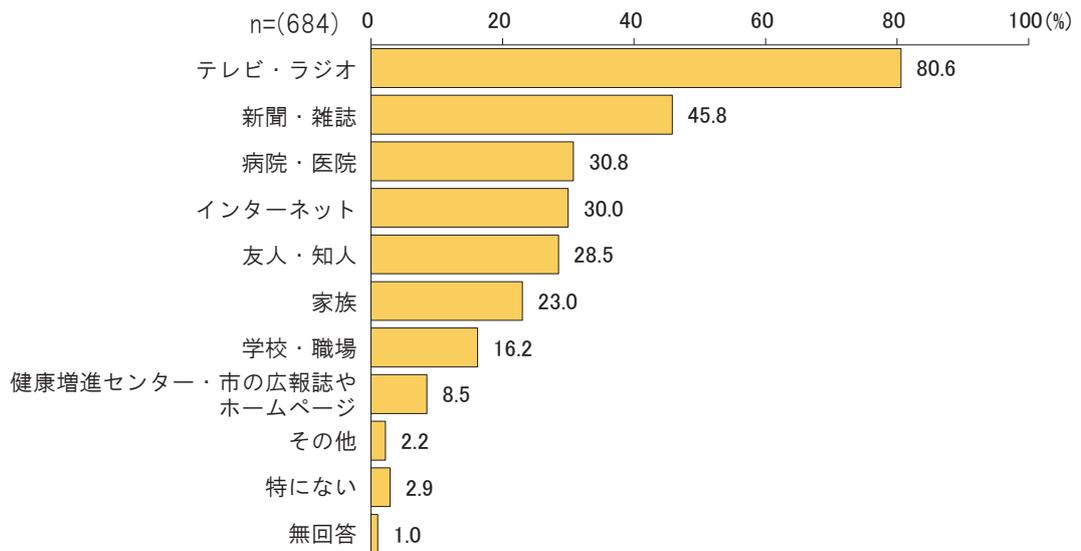
(2) 市からの健康に関する情報の希望入手先

市からの健康に関する情報の希望入手先では、「広報富士見」が58.4%と最も高く、以下「市のホームページ」(31.0%)、「病院・医院」(23.6%)、「スマートフォンのアプリやサイト(ココシル☆ふじみ<sup>19</sup>、スマイルなび<sup>20</sup>など)」(16.4%)となっています。(成人調査)

市からの健康に関する情報の希望入手先（複数回答） 令和2年度



健康情報の入手先（複数回答） 平成26年度



※平成26年度は参考として掲載

<sup>19</sup> 富士見市のイベントや観光スポット、散策コース等の情報を提供するスマートフォン・タブレット用アプリ。

<sup>20</sup> 予防接種スケジュールや、妊娠週数や子どもの月齢・年齢に合わせた子育て応援メールが配信されるサービス。

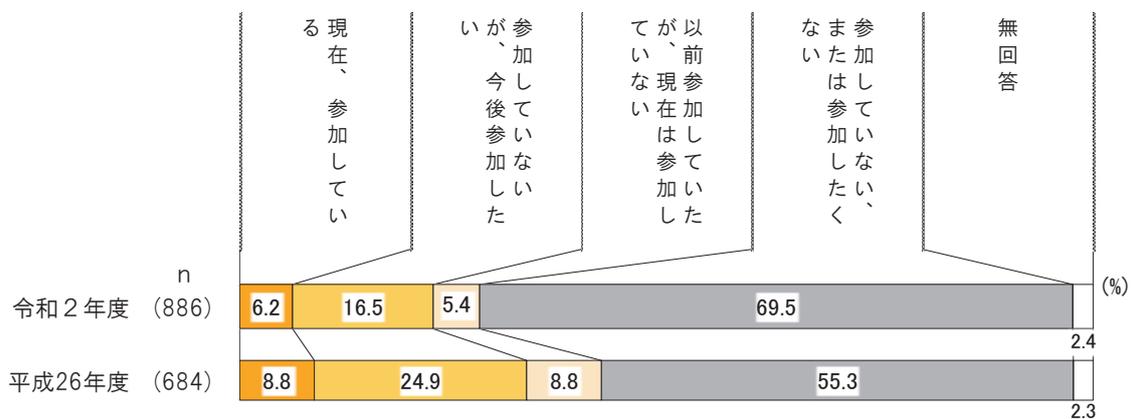
## 2. 地域での活動

### (1) 地域での「健康づくりのための自主グループ活動やサークル活動」への参加状況

地域での健康づくりのための自主グループ<sup>21</sup>活動やサークル活動への参加状況では、「参加していない、または参加したくない」が69.5%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「参加していない、または参加したくない」が14.2ポイント増加しています。(成人調査)

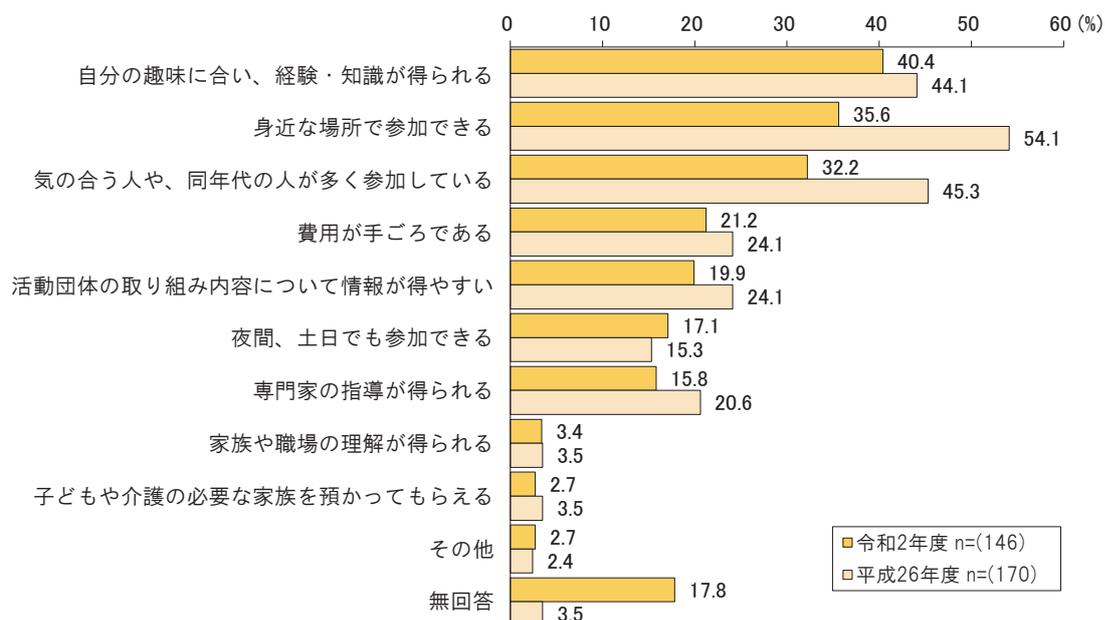
地域での「健康づくりのための自主グループ活動やサークル活動」への参加状況 (単数回答)



### (2) グループ活動への参加に必要なだと思う条件

グループ活動への参加に必要なと思う条件では、「自分の趣味に合い、経験・知識が得られる」が40.4%で最も高く、以下「身近な場所で参加できる」(35.6%)、「気の合う人や、同年代の人が多く参加している」(32.2%)、「費用が手ごろである」(21.2%)となっています。(成人調査)

グループ活動への参加に必要なと思う条件 (複数回答)



<sup>21</sup> 健康づくりや介護予防を目的に、地域で自主的に活動している、市民による各種団体のこと。